

大仙市畜産振興プラン【概要版】

Livestock Action Plan of Daisen City

(実施期間) 令和3年度～令和7年度

策定の目的

本プランは、第4次大仙市農業振興計画に掲げる『**活力ある畜産業の推進**』における具体的な取組についてを明らかにし、対象畜種は『**肉用牛、乳用牛、養豚**』とします。

現状

- 肉用牛の飼養頭数が増加しています。
1,746頭(H27) → 2,126頭(R1)
5年間で、380頭増加(約22%増)
- 肉用牛・酪農の経営体数が減少しています。
150戸(H27) → 119戸(R1)
5年間で、31戸が廃業(約21%減)
- 豚の飼養頭数が増加しています。
23,716頭(H27) → 31,067頭(R1)
(飼養戸数11戸) (飼養戸数9戸)
5年間で、7,351頭増加(約31%増)

【肉用牛・酪農】

経営体数は年々減少しているものの、40代以下の担い手による大規模、多頭経営の進展により飼養頭数は向上。しかしながら、肉用牛(繁殖)経営体の約66%が飼養頭数10頭以下の小規模経営体が下支えしている。酪農については、搾乳等の労働負担が大きく、肉用牛(繁殖)への経営転換を模索する経営体もいる。

【養豚】

企業経営体による生産基盤の整備により、飼養頭数及び農業産出額(約20億円)を大きく押し上げている。

課題

【肉用牛・酪農】

- ・増頭などに伴う粗飼料確保、ふん尿処理の問題
- ・労働負担の増大、作業ヘルパーの確保の問題
- ・生産に不可欠な家畜運搬車や堆肥運搬機械等の更新
- ・酪農、中小規模経営体の畜舎施設の老朽化など

【養豚】

- ・豚熱(CSF)などの家畜伝染病への対応
- ・地域ブランド豚の継承、認知度、PR不足など



基本目標

みんなで『伸ばす支える活かす』だいせんの畜産

生産者と関係機関が一体となった『オールだいせん』による畜産振興の構築

アクション1 『みんなで伸ばす』

大規模から小規模までの多様な畜産経営体を応援します。

【施策目標】 生産基盤の維持拡大による優れた畜産物の安定供給

基本施策

- 大規模経営体の育成
- 中小規模・家族経営の維持
- ◆地域の畜産環境対策

具体的な取組内容

- 生産基盤や収益力の強化を図るための畜舎整備や、作業の省力化機械の導入を支援します。
- 労働負担の軽減と、省力化に向けたスマート畜産(ICT技術等)の普及を進めます。
- 畜産販売額を押し上げる県内外の優良な家畜の導入に対し、支援します。
- やりがいと生きがいを持って、畜産経営に取組む中小規模の経営体の底上げを図ります。
- ◆生産者が主体的に取組む地域の畜産環境対策(臭気、防音等)を促進します。

アクション2 『みんなで支える』

産地力の強化と、地場畜産物の消費拡大を図ります。

【施策目標】 オールだいせん(産地全体)で取組む畜産業の活性化と、安心安全な地場畜産物の地産地消

基本施策

- 産地全体の元気づくり
- 地場畜産物の消費拡大
- ◆家畜防疫体制の整備

具体的な取組内容

- 日頃の家畜改良の成果を競い合う畜産共進会にチャレンジする生産者を育成します。
- 産地全体の課題である家畜の出荷運搬体制の強化に向けた取組を支援します。
- 中仙杜仲豚などの地場畜産物食材の消費拡大とPR活動を促進します。
- ◆県と連携し、家畜伝染病発生時に、迅速かつ的確に対応できる体制の整備に取組みます。

アクション3 『みんなで活かす』

地域に根ざした持続可能な資源循環型農業を推進します。

【施策目標】 安定的な粗飼料の確保と、着実な耕畜連携の展開

基本施策

- 粗飼料対策の推進
- 耕畜連携の促進

具体的な取組内容

- 水田フル活用による安定的な粗飼料(牧草、WCS)確保に向けた取組を推進します。
- 牛の健康増進と、労働力、粗飼料コスト削減のための市営放牧場の利活用を促進します。
- 地域の耕種農家と畜産農家が連携した、敷料としてのもみ殻の活用を推進します。
- 生産者が共同で利用する堆肥舎整備を支援します。